令和7年度

シ ラ バ ス

（ 講 義 ・ 実 習 ）

(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

1学年

茨城歯科専門学校　歯科技工士科

歯科技工士科

入学者の受け入れ方針(アドミッションポリシー)

歯科技工士の専門職を目指そうとする、以下のような資質を備えた人を求めています。

1　歯科技工士になりたいという強い意志を持つ人

2　歯科技工学の習得に必要な基礎学力を有する人

3　向上心が高く、日々努力を重ねられる人

卒業認定・称号授与方針(ディプロマポリシー)

本校所定の単位を取得し、以下の能力を身につけた者を卒業認定し、専門士(医療専門課程)の称号を授与します。

1　歯科技工士になるための基礎的な知識と技術を身につけている。

2　チーム医療の一員として活躍できるコミュニケーション能力を身につけている。

3　医療人としての心構えと倫理観を身につけている。

目　次

１学年

（科学的思想の基盤　人間と生活）

英　語　・・・1- 1

造形美術　・・・1- 3

コミュニケーション学・・・1- 5

（歯科技工と歯科医療）

歯科技工学概論　・・・1- 7

（歯・口腔の構造と機能）

歯の解剖学Ⅰ　・・・1- 9

歯の解剖学Ⅱ　・・・1-11

歯の解剖学Ⅲ　・・・1-13

歯の解剖学実習Ⅰ　・・・1-15

顎口腔機能学　・・・1-19

顎口腔機能学実習　・・・1-21

（歯科材料・歯科技工機器と加工技術）

歯科理工学Ⅰ　・・・1-23

歯科理工学Ⅱ　・・・1-25

歯科理工学Ⅲ　・・・1-27

歯科理工学実習　・・・1-29

（有床義歯技工学）

全部床義歯技工学　・・・1-41

全部床義歯技工学実習Ⅰ　・・・1-43

部分床義歯技工学　・・・1-53

部分床義歯技工学実習Ⅰ　・・・1-55

（歯冠修復技工学）

歯冠修復技工学　・・・1-65

歯冠修復技工学実習Ⅰ　・・・1-67

架工義歯技工学　・・・1-75

架工義歯技工学実習Ⅰ　・・・1-77

授業科目	英　語　（講義） 必修　30/30 時間(前期)	担当教員	谷萩　紀行
授業目標・教育方針と概要	あらゆる分野でグローバル化が進み，インターネットや電子メールの普及により日常生活で英語を使用する機会は増している。歯科技工士の分野に目を移しても，日本人歯科技工士の海外進出も珍しくなく，海外での学会参加・インターネットやメールなどによる交流は益々増え，英語の基本を習得することは不可欠である。		
達成目標	・歯科技工士に関する専門用語を英語で習得する。 ・海外で活躍する場面を想定して，英語会話に精通する。 ・歯科技工士を職業としながら広く海外の人々と交流できる英語を習得する。		
授業計画	第１回　英語学習の意義と必要性・効果的学習の方法 基礎学力検査 第２回　あいさつ（はじめてのあいさつ・知り合いとのあいさつ） 第３回　国際交流（事前のやりとり・見学当日） 第４回　ショッピング 第５回　海外の展示会に参加する （入国手続き・タクシーに乗る・ホテルのフロント） 第６回　海外の展示会に参加する （展示会場に行く・デモの見学） 第７回　海外の展示会に参加する（まとめ・Listening） 第８回　海外で働く（訪問先へのアポイント・面接） 第９回　海外で働く（ラボ見学・採用試験） 第１０回　海外で働く（(まとめ・Dictation） 第１１回　「歯が痛い」 第１２回　「入れ歯を入れたい」 第１３回　「歯ならびを治したい」（１回目の診療・２回目の診療） 第１４回　「歯を白くしたい」 第１５回　「歯と歯の間に隙間ができた」（１回目の診療・検査後）		
履修上の注意	・出席は毎時間取るので，無断欠席をしないこと。 ・授業時数が少ないので注意すること。		
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	定期試験の結果だけでなく，授業中の英語発表や小テストの提出状況なども配慮して評価する。		

水準に達しない学生に対する対応	達成段階に応じて，再試験や課題の提出を課す。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科技工士が経験するであろう様々な場面での専門知識に触れることにより，歯科技工士としての活躍の場が一層拡がるように配慮してある。 ・歯科技工士関連教科で使用されている英語名の理解を深めて，他の教科との連携を深める。
教　科　書	最新歯科技工士教本　「歯科英語」 全国歯科技工士教育協議会　編集（医歯薬出版）
参　考　書	

授 業 科 目	造形美術概論 （講義） 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	益子　和明
授業目標・教育方針と概要	歯科技工に必要な造形力、美的感覚・素養を磨く。 歯牙形態の観察・デッサンの技法を介し、造形表現の力をつける。 色彩の基礎を学び、色彩感覚を養う。		
達 成 目 標	物体に対する正確な認識、観察ができる。 造形形態の陰影と立体感の表現ができる。 適した色彩表現ができる。 プロポーションガイドを使用して、正確に観察し形を捉えることができる。		
授 業 計 画	第１回　ものづくりの基本　－　立方体をつくる。 第２回　スケッチの基本　　－　線でとらえる。 第３回　デッサンの基本　－　面でとらえる。 第４回　視覚と錯覚　　－　プロポーションガイドを使って歯型モデルを描く。 第５回　色彩の学習　　－　前頭面観を描く。 第６回　色彩の学習　　－　鉛筆淡彩で着色。 第７回　全顎模型を描く　－　プロポーションガイドで形をとる。 第８回　全顎模型を描く　－　陰影を描く。		
履修上の注意	毎時間制作活動が入るので、必要な用具等準備を忘れないこと。 課題の提出期限を守ること。		
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	講義内容を理解し丁寧に課題が制作できているか。また、その技術。 制作物に対する心構え、授業態度を含む。		
水準に達しない学生に対する対応	課題の再提出、追加課題を課す。		

関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	形や色を正確に認識することは、歯科補綴物を製作するうえで重要である。
教科書	最新歯科技工士教本「歯科技工造形学」全国歯科技工士教育協議会編集
参考書	

授 業 科 目	コミュニケーション学（講義） 必修　16/16 時間(後期)	担当教員	田寺　尚子
授業目標・教育方針と概要	コミュニケーションの定義や種類を理解し、正しい言葉遣いの実践に繋げる。社会人として更には医療従事者としての自覚を持ち、適切な身だしなみや対応方法を理解する。その上で、傾聴、承認、質問のスキルなどを習得し現実的な現場での活用に繋げていく。		
達　成　目　標	コミュニケーションの定義を理解し、良好なコミュニケーションが現場に於いてどの様な効果をもたらすか納得し、個人個人が現場をイメージして社会人になった時の実践に繋げること。個人のコミュニケーションの課題設定まで実施する。		
授　業　計　画	第１回　・コミュニケーションの概要について ・コミュニケーションの種類について ＊言語と非言語につて理解を深める 第２回　・コミュニケーションの成立過程 ・医療の現場におけるコミュニケーションを障害するもの ＊ジョハリの窓を用いて自己開示とフィードバックについて説明をします。(伝えること、受容することから理解できることについて) ＊思い込みについて説明をします 第３回　・良好なコミュニケーションをするためのスキル ＊メラビアンについて説明します ＊パーソナルスペースの説明とあわせて挨拶の種類を内容に加えます 第４回　・傾聴・承認・質問法・共感 ＊傾聴実習 ＊ワーク実践で理解を深めます ＊共感の重要性を説明します 第５回　・接遇とマナー ＊敬語の遣い方 ＊電話応対の基本実践 第６回　・身だしなみ ＊第一印象の重要性について説明します ＊安心・安全な環境につて内容を加えます 第７回　・自分のコミュニケーションの課題設定 ＊アクションプランの作成とセルフコーチングの重要性 ＊ストレス耐性と表現、モチベーションについて説明します 第８回　・サービスとホスピタリティの違い ＊ホスピタリティマインドの対応力について理解を深めます		

履修上の注意	・実践的で対応力が柔軟な専門的職業人を意識する ・ホスピタリティマインドとコミュニケーションから生まれる効果を意識する
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	・試験と受講態度
水準に達しない学生に対する対応	・レポート（課題設定の内容を含む）
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	コミュニケーション能力は、他職種と連携して仕事を行う歯科技工にとって重要である。
教　科　書	最新歯科技工士教本　歯科技工管理学
参　考　書	

授 業 科 目	歯科技工学概論 （講義） 必修　30/30 時間(前期)	担当教員	永木　修二 （実務経験教員） 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯科医療にたずさわる歯科技工士としての倫理をはじめ、基本的な口の中の構造や歯牙疾患、口の中の病気のことなどを学ぶ。また、技工を行ううえでの歯科技工士の健康の管理、作業環境、品質の管理、その他歯科技工所の運営などを幅広く学ぶ。		
達 成 目 標	１．　歯科医療と歯科技工について理解する。 ２．　歯科技工士の役割について理解する。 ３．　顔および口腔組織の形態と機能について理解する。 ４．　歯科疾患と周囲組織の変化について理解する。 ５．　歯科臨床と歯科技工について理解する。 ６．　歯科技工の管理と運営について理解する。 ７．　口腔と全身の健康管理について理解する。		
授 業 計 画	第１回　全体の授業内容の説明と虫歯・歯周疾患・顎関節症について動画で簡単に説明。 第２回　医療の目的、インフォームドコンセント、EBM、QOL、ADL、チームアプローチ等について説明。 第３回　歯科医療の特異性、歯科医療の目的、歯科技工と歯科技工学、諸外国の歯科技工士養成制度について説明。 第４回　歯科技工士の業務、歯科技工士の倫理、歯科技工士の現状。 第５回　歯の形態、歯および歯列の形態について。 第６回　歯および歯周組織の構造、口腔の基本的構造、歯科治療における審美について。 第７回　歯の異常、硬組織疾患、ウ蝕の要因、歯周組織疾患について。 第８回　歯の喪失に伴う周囲組織の変化、歯科疾患の現状について。 第９回　硬組織疾患の治療に適用する補綴物の分類、歯の欠損を修復する場合に適用する補綴物について。 第１０回　歯列不正治療に適用する装置、口腔外科疾患治療に適用する装置について。 第１１回　歯科技工の作業環境について。 第１２回　歯科技工業務の運営、就業形態・経営、品質管理・品質保証について。 第１３回　歯科技工士の健康管理、歯科技工作業と感染予防について 第１４回　歯と全身の健康　日本における健康政策。 第１５回　在宅歯科医療と歯科技工士の役割。		

履修上の注意	講義はスライドを使用して行う。
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	定期試験は、５０問の○×式なので、教科書を広く理解することが必要である。
水準に達しない学生に対する対応	再試験を定期試験と同様な方法で行う。
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	歯科技工概論は、専門科目と重複するものがあるが、他の科目の理解を助ける程度に幅広く講義する。
教　科　書	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」全国歯科技工士教育協議会　編集
参　考　書	

授 業 科 目	歯の解剖学Ⅰ(総論) （講義） 必修　20/20 時間(前期)	担当教員	馬場　耕平 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯の解剖学Ⅰ（総論）の目的は、歯や歯周組織の形、鑑別の基礎的な総論を理解し、解剖学的形態のみならず、顎口腔系の機能回復のために、歯科技工士として必要な基礎的知識を習得することである。		
達　成　目　標	１、歯とは何かについて理解し、記号や用語を学び、歯の鑑別ができる。 ２、歯の発生段階について理解する。 ３、歯の硬組織、歯周組織について理解する。 ４、歯列、咬合の構造を理解する。		
授　業　計　画	第１回　　全体の授業内容(シラバス)の説明　歯の概説（歯の定義） 授業内容：歯の解剖学を学ぶ意義や重要性について理解する。 第２回　　歯の構造（外形と内形） 授業内容：ヒトの歯の外形と内形について理解する。 第３回　　歯の種類とその名称 授業内容：前歯と臼歯ついて理解する。 第４回　　歯の記号と歯式、歯の用語 授業内容：歯の記号と歯式、方向や部位の用語について理解する。 第５回　　歯の形の概説（歯の鑑別)、乳歯 授業内容：歯の鑑別、乳歯と永久歯の違いについて理解する。 第６回　　歯の発生 授業内容：発生の各段階の特徴について理解し、歯冠、歯根の形成を理解する。 第７回　　歯と歯周組織（歯の組織） 授業内容：歯の硬組織について構造を理解する。 第８回　　歯と歯周組織（歯周組織)、加齢現象 授業内容：歯周組織について構造を理解する。加齢変化を理解する。 第９回　　歯列と咬合（上下顎の位置関係） 授業内容：歯列、咬合についての構造、特徴を理解する。 第10回　　まとめ 授業内容：今までの授業内容の確認および補足。		
履修上の注意	出席は毎時取るので無断で欠席しないこと。居眠りは欠席とみなす。 必要に応じて参考資料を渡すが、きちんと保管し、教科書と一緒に毎回持参すること。		

成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	定期試験では達成目標のリストに挙げたことがらの意味を理解し、問題に応じて解くことができることをみる。定期試験の結果で成績評価を行う。
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果の状況をもとに、再試験やレポートを課す。
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	講義内容の理解を深めるために、歯型彫刻等の実習を行い、さらに立体的に理解すること。
教　科　書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	

授業科目	歯の解剖学Ⅱ(各論) (講義) 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	川崎　邦彦 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	歯牙の形態・特徴を理解し、歯科技工士として必要な知識を身に付ける。 また、技術を身に付けるうえで基礎となる分野なので、その重要さを理解する。		
達成目標	1、各歯牙の解剖学的形態、特徴を理解し覚える。 2、客観的かつ正確な形態観察ができる。 3、歯種の鑑別ができる。		
授業計画	第1回　概　論 第2回　上下切歯 第3回　上下犬歯 第4回　上顎小臼歯 第5回　下顎小臼歯 第6回　上顎大臼歯 第7回　下顎大臼歯 第8回　まとめ		
履修上の注意	欠席をしないこと。 授業をよく聞き、理解できるまで復習すること。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験の結果により評価する。 授業態度、提出物も考慮する。		
水準に達しない学生に対する対応	再試験，あるいは課題提出。		
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	歯の解剖学実習にて各歯牙のスケッチおよび歯型彫刻を行う。 歯科技工作業全体の中での基礎となる。		

教　科　書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」全国歯科技工士教育協議会編集 第 2 版　最新歯型彫刻　理論と実際　　医歯薬出版株式会社　編集
参　考　書	特になし

授 業 科 目	歯の解剖学Ⅲ(口腔解剖)(講義) 必修　20/20 時間(前期)	担当教員	樋之口　修一 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	口腔解剖学は，口腔内外の器官に関する構造，機能とその相互関係を習得することを目標にする。		
達 成 目 標	１．頭蓋骨に関する構造や，それぞれの位置関係について学び，理解する。 ２．口腔周囲の筋肉に関する分布と種類，またその作用について学び，理解する。 ３．顎関節の特徴，運動及び作用について学び，理解する。 ４．口腔の区分とそれに付随する器官の位置と種類について学び，理解する。		
授 業 計 画	第１回　頭蓋骨総論 第２回　脳頭蓋骨（後頭骨～側頭骨） 第３回　脳頭蓋骨（前頭骨～鼻骨） 第４回　顔面頭蓋骨（上顎骨～口蓋骨） 第５回　顔面頭蓋骨（下顎骨・舌骨） 第６回　頭蓋の全景　口腔周囲の筋（浅頭筋） 第７回　口腔周囲の筋（深頭筋・舌骨筋群） 第８回　顎関節の構造　顎関節の運動 第９回　口腔（口腔・口蓋） 第１０回　唾液腺　舌　咽頭と咬頭		
履修上の注意	教科書をよく読むこと。 わからないときは積極的に質問すること。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験の結果で成績評価を行う。		
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果をもとに再試験を行う。		
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	基礎歯科医学，臨床歯科医学を学んでいく上の基礎となる教科であると考える。		

教　科　書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」　全国歯科技工士教育協議会　編集
参　考　書	特になし

授　業　科　目	歯の解剖学実習Ⅰ（実習） 必修　76/100 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「スケッチ・2.4 角歯型彫刻」 歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。		
達　成　目　標	・永久歯の形態を彫刻できる。		
授　業　計　画	第 1 回　上顎右側中切歯　スケッチ 第 2 回　上顎右側中切歯　提　出 第 3 回　歯型彫刻　（面取り・外形記入） 第 4 回　歯型彫刻　（面取り・外形記入）　提　出 第 5 回　歯型彫刻　（粗彫り） 第 6 回　歯型彫刻　（粗彫り） 第 7 回　歯型彫刻　（中彫り） 第 8 回　歯型彫刻　（中彫り） 第 9 回　歯型彫刻　（細部彫刻）　提出 第 10 回　上顎右側犬歯　スケッチ 第 11 回　上顎右側犬歯　スケッチ　提出 第 12 回　歯型彫刻　（面取り・外形記入）　提出 第 13 回　歯型彫刻　（粗彫り） 第 14 回　歯型彫刻　（中彫り） 第 15 回　歯型彫刻　（細部彫刻）　提出 第 16 回　上顎右側第一小臼歯　スケッチ 第 17 回　上顎右側第一小臼歯　スケッチ　提出 第 18 回　歯型彫刻　（面取り・外形記入）　提出 第 19 回　歯型彫刻　（粗彫り） 第 20 回　歯型彫刻　（中彫り） 第 21 回　歯型彫刻　（細部彫刻）　提出 第 22 回　上顎右側第一大臼歯　スケッチ 第 23 回　上顎右側第一大臼歯　スケッチ提出 第 24 回　歯型彫刻　（面取り・外形記入）　提出 第 25 回　歯型彫刻　（粗彫り） 第 26 回　歯型彫刻　（中彫り） 第 27 回　歯型彫刻　（細部彫刻）　提出		

<table>
<tr><td></td><td>第 28 回　下顎右側第二小臼歯　スケッチ
第 29 回　下顎右側第二小臼歯　スケッチ　提出
第 30 回　歯型彫刻　　（面取り・外形記入）　提出
第 31 回　歯型彫刻　　（粗彫り・中彫り）
第 32 回　歯型彫刻　　（細部彫刻）　提出
第 33 回　下顎右側第一大臼歯　スケッチ
第 34 回　下顎右側第一大臼歯　スケッチ　提出
第 35 回　歯型彫刻　　（面取り・外形記入）　提出
第 36 回　歯型彫刻　　（粗彫り・中彫り）
第 37 回　歯型彫刻　　（細部彫刻）
第 38 回　歯型彫刻　　（細部彫刻）　提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table><tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr><tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>４</td></tr><tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>３</td></tr><tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>２</td></tr><tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>１</td></tr><tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>０</td></tr></table>提出された製作物および期末試験の結果を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。あるいは最初から彫刻する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯の解剖学「総論・各論・口腔解剖」の講義と関連する。
・歯の２倍大模型を参考にスケッチおよび彫刻をすることで、歯の形態への理解を深める。</td></tr>
<tr><td>教　　科　　書</td><td>最新歯科技工士教本『口腔・顎顔面解剖学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　　考　　書</td><td>歯の解剖学・歯科理工学実習書、歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯の解剖学実習Ⅰ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　24/100 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「1.5 角歯型彫刻」
歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・永久歯の形態を彫刻できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　上顎左側中切歯・上顎左側側切歯・上顎左側犬歯
(面取り・スケッチ)
第 2 回　上顎左側中切歯　歯型彫刻　提出
第 3 回　上顎左側側切歯　歯型彫刻　提出
第 4 回　上顎左側犬歯　歯型彫刻　提出
第 5 回　上顎左側第一小臼歯　歯型彫刻　提出
第 6 回　上顎左側第二小臼歯　歯型彫刻　提出
第 7 回　上顎左側第一大臼歯　歯型彫刻　提出
第 8 回　上顎左側第二大臼歯　歯型彫刻　提出
第 9 回　下顎左側第一小臼歯　歯型彫刻　提出
第 10 回　下顎左側第二小臼歯　歯型彫刻　提出
第 11 回　下顎左側第一大臼歯　歯型彫刻　提出
第 12 回　下顎左側第二大臼歯　歯型彫刻　提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物および期末試験の結果を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">製作物を再度修正して提出する。あるいは最初から彫刻する。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯の解剖学「総論・各論・口腔解剖」の講義と関連する。 ・歯の形態を覚え、平面的および立体的に再現する訓練を行うことで、歯科技工物を製作する基礎力を養う。
教　科　書	最新歯科技工士教本『口腔・顎顔面解剖学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯の解剖学・歯科理工学実習書、歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻

授 業 科 目	顎口腔機能学（講義） 必修　16/16 時間(後期)	担当教員	野口　知彦 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	生体に調和した形態の補綴物を製作したり，口腔内で機能させることができるよう，咬合や咬合器の取り扱い，顎口腔系の解剖学などを修得する。		
達　成　目　標	・ 顎口腔系の概念を理解する ・ 咬合平面を理解する ・ 下顎位の意義を理解する ・ 下顎運動を理解する ・ 咬合器の使用目的と調節方法を理解する		
授　業　計　画	第１回　　顎口腔系の形態 第２回　　顎口腔系の形態 第３回　　顎口腔系の機能 第４回　　下顎位 第５回　　下顎運動 第６回　　歯の接触様式 第７回　　咬合器 第８回　　咬合検査と顎機能障害		
履修上の注意	出欠は毎時間確認するので無断欠席をしないこと。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験にて評価する。		
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果，不合格の場合は再試験を行う。		

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	歯冠修復技工学・歯冠修復の「下顎運動と咬合器」，有床義歯技工学・総義歯の「下顎運動と咬合器」などと関連する。
教　科　書	最新歯科技工士教本　「顎口腔機能学」 全国歯科技工士教育協議会編集　（医歯薬出版）
参　考　書	

授 業 科 目	顎口腔機能学実習（実習） 必修　34/34 時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	顎口腔系の基本構造と機能を理解し、デンタータス咬合器を使用し、フェイスボウトランスファー、半調節性咬合器への装着および、咬合採得、調節方法を修得する。		
達　成　目　標	・半調節性咬合器（デンタータスＡＲＬ咬合器）が使用できる。 ・フェイスボウの取り扱いができる。 ・チェックバイト採得用のトレーを製作し、手順を説明できる。 ・チェックバイトを使用し咬合器の各部調節ができる。		
授　業　計　画	第 1 回　印象採得 第 2 回　印象採得 第 3 回　模型製作・調整 第 4 回　模型製作・調整 第 5 回　模型製作・調整 第 6 回　スプリット形成 第 7 回　スプリット形成 第 8 回　実習講義 第 9 回　上顎模型装着(フェイスボウトランスファー) 第 10 回　上顎模型装着(フェイスボウトランスファー) 第 11 回　下顎模型装着 第 12 回　下顎模型装着 第 13 回　チェックバイト用トレー製作 第 14 回　チェックバイト採得 第 15 回　チェックバイト採得 第 16 回　各部調節、データー記入 第 17 回　まとめ		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
テスト(口頭試問)および提出されたノートを評価するだけでなく、実習中の態度や状況も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>計測不能部分や修正部分等があれば、再度作業ステップまで戻りやり直す。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・顎口腔機能学の講義で習得した知識を用いて、半調節性咬合器の操作を実践する。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『顎口腔機能学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>咬合学実習書「デンタータスＡＲＬと付属品の使用方法」</td></tr>
</table>

授業科目	歯科理工学Ⅰ(器械)　(講義) 必修　30/30 時間(前期)	担当教員	大森　如水
授業目標・教育方針と概要	歯科理工学Ⅰでは、歯科修復を行うにあたっての歯科材料の基礎知識を身につけさせるとともに、金属材料試験法、加工法及び熱処理法等の技術・技能を理解・習得させる。また、器具・器械などの取り扱い関する技術・技能を習得させる。		
達成目標	1　歯科理工学の意義と目的を理解する。 2　歯科材料のさまざまな性質を理解するための基礎知識を身につける。 3　歯科用合金の所用性質を理解する。 4　歯科材料の機械的性質の改善法を理解・習得する。 5　歯科補綴物を製作するための加工技術を身につける。 6　金属材料の材料試験法を理解・習得する。		
授業計画	第１回　歯科理工学の意義と目的 第２回　歯科材料の性質及び国際単位 第３回　機械的性質及び引張試験法,硬さ試験法,衝撃試験法 第４回　歯科材料の物理的性質,化学的性質及び生物学的性質 第５回　実習：材料試験（引張試験，衝撃試験，硬さ試験） 第６回　実習：材料試験（引張試験，衝撃試験，硬さ試験） 第７回　材料試験（引張試験，衝撃試験，硬さ試験）実習のデータ処理 第８回　金属及び合金の性質 第９回　純金属と合金金属の性質および結晶構造 第１０回　合金の状態図（全率固溶体形,共晶形合金 1,共晶形合金 2） 第１１回　貴金属系合金の種類及び添加元素の役割 第１２回　非貴金属合金の種類及び添加元素の役割 第１３回　金属成形法及び合金の熱処理 第１４回　鑞付け,腐食の原因と抑制 第１５回　歯科技工用器具・器械及び歯科技工の安全性		
履修上の注意	出席は毎時間取るので無断で欠席しないこと。どの程度理解しているかをみるため、時々まとめテストあるいは質問をするが成績には関係しない。解らないことは積極的に質問すること。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験の結果で成績評価を行う。定期試験は、達成目標に沿った内容の問題を出題する。歯科材料に関する性質、機械に関する専門用語及び加工法等についての理解度をみる。		

水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果の状況をもとに再試験やレポートを課す。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	金属材料の性質を講義だけで理解しがたいので、材料試験（引張試験、硬さ試験及び衝撃試験）実習を行う。
教　科　書	最新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	

授　業　科　目	歯科理工学Ⅱ(材料)　(講義) 必修　20/20 時間(前期)	担当教員	寺門　重徳 (実務経験者) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯科技工は正確性と芸術性を併せ持つ職であり，生体の一部として機能する歯を人工的に回復するためには無くてはならない職である。 そのために使われている各種の材料の特性や物性について学び，実際に使用する際にそれらの特質が最大限生かせるようにする。		
達　成　目　標	歯科技工で使用されている材料を挙げることができる。 それらの特性を知り，生体材料の一部であることを理解する。		
授　業　計　画	第１回　歯科技工と歯科理工学 第２回　印象と模型製作 第３回　原型製作 第４回　レジン成形 第５回　セラミック成形 第６回　金属成形 第７回　CAD/CAM 第８回　その他の歯科材料 第９回　補綴装置と修復物の仕上げ 第１０回　補綴装置と修復物の安定性		
履修上の注意	無断欠席はしないこと。 解らないことは積極的に質問すること。		
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	出欠席状況、受講態度、レポート、定期試験にて総合的に評価する。		

水準に達しない学生に対する対応	定期試験不合格の場合は再試験を行う。
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	材料の物性を知ることは全ての実習への理解度を高める。実習を行う際に基本に忠実な操作を心がけ、精密な補綴物を製作できるようにする。
教　　科　　書	最新歯科技工士教本「歯科理工学」 全国歯科技工士教育協議会編集（医歯薬出版）
参　　考　　書	

授 業 科 目	歯科理工学Ⅲ(鋳造) （講義） 必修　16 /16 時間(前期)	担当教員	川崎　泰 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯科技工という医療技術の現場において使われている各種の材料の特性，物性について科学的に認識させる。		
達　成　目　標	歯科技工で使用されている材料の物性を科学的に理解させた後，それらが一般工業界，医学界においていわれている，「生体材料」の一部であることを発見させ，歯科的見識を深める.		
授　業　計　画	第１回　　歯科一般について 第２回　　歯科及び技工の歴史，概論 第３回　　金属材料，無機材料などについての総論 第４回　　物性について，生体材料について 第５回　　鋳造一般について，CAD/CAM について 第６回　　無機材料としての埋没材，無機材料としての陶材 陶材焼付のメカニズム 第７回　　鋳造，鋳造機について 第８回　　鋳造欠陥		
履修上の注意	出欠は毎時間確認するので無断欠席をしないこと		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験にて評価する		

水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果，不合格の場合は再試験を行う
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	この教科は実習を行うことにより理解度が高くなる． よって実習は必ず参加し，鋳造のメカニズムをしっかり修得する．
教　科　書	最新歯科技工士教本　「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編集（医歯薬出版）
参　考　書	

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯科理工学実習（実習）
必修　26/90 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「石膏硬化時の温度上昇と硬化時間の測定、硬化膨張」
歯科技工に必要な作業用模型の製作材料の種類と特徴を理解する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・石膏が硬化するときの温度上昇を測定し硬化時間との関連を学ぶ。
・石膏の練和方法を習得し、硬化反応に及ぼす因子について学ぶ。
・石膏の硬化膨張を測定し、硬化膨張に及ぼす諸因子の影響を調べて
・正確な作業用模型をつくるために必要な基礎事項を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義・石膏棒製作
第 2 回　石膏棒製作・模型製作
第 3 回　硬化時間と温度上昇実験　①
第 4 回　〃　②
第 5 回　〃　③
第 6 回　〃　④
第 7 回　〃　⑤
第 8 回　石膏の硬化膨張実験　①
第 9 回　〃　②
第 10 回　〃　③
第 11 回　〃　④
第 12 回　〃　⑤
第 13 回　データー処理　まとめ</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出されたデーターシート、考察および、実験内容に沿った試験だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
</table>

水準に達しない学生に対する対応	合格点に満たない場合は再試験を行う。内容によっては再実験、データーシートの再提出。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科理工学Ⅱ「材料」の講義の理解を深めるために実験を行う。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯科理工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯科理工学実習書、歯科技工士のための歯科理工学実習

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯科理工学実習（実習）
必修　8/90 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
(実務経験教員)
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「レジン粉液の膨潤時間」
加熱重合レジンの特性を学習し、成形法を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・加熱重合レジンのポリマーとモノマーを混合したときの温度による膨潤の速度と膨潤の変化状態が解る。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義　デモンストレーション
第 2 回　レジンの膨潤時間　①
第 3 回　レジンの膨潤時間　②
第 4 回　データー処理、まとめ</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出されたデーターシート、考察および、実験内容に沿った試験だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">合格点に満たない場合は再試験を行う。内容によっては再実験、データーシートの再提出。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科理工学Ⅱ「材料」の講義の理解を深めるために実験を行う。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯科理工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯科理工学実習書、歯科技工士のための歯科理工学実習

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯科理工学実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　14/90 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「ワックスの変形」
・ワックスの種類と用途を説明できる。
・ワックスの組成と性質を説明できる。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・　曲げ加工した棒状ワックスと、加工条件やその後の放置条件でどのように相違するかを調べ、内部応力の発生と解放に伴う変形について理解する。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第１回　実習講義
第２回　ワックス片作成　①
第３回　ワックス片作成　②
第４回　ワックス片作成　③
第５回　ワックス変形　①
第６回　ワックス変形　②
第７回　データー処理　まとめ</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出されたデーターシート、考察および、実験内容に沿った試験だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">合格点に満たない場合は再試験を行う。内容によっては再実験、データーシートの再提出。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科理工学Ⅱ「材料」の講義の理解を深めるために実験を行う。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯科理工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯科理工学実習書、歯科技工士のための歯科理工学実習

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯科理工学実習（実習）
必修　12/90 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「埋没材の硬化膨張・吸水膨張」
埋没材の種類・性質・埋没操作および鋳型加熱を説明できる。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・　種々の条件で各種埋没材の硬化膨張および吸水膨張を測定し、各条件による膨張率の変化を学ぶ。また、各埋没材の膨張率を比較する。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第１回　実習講義
第２回　埋没材の硬化膨張実験　①
第３回　埋没材の硬化膨張実験　②
第４回　埋没材の硬化膨張実験　③
第５回　埋没材の硬化膨張実験　④
第６回　データー処理　まとめ</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>４</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>３</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>２</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>１</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>０</td></tr>
</table>
提出されたデーターシート、考察および、実験内容に沿った試験だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">合格点に満たない場合は再試験を行う。内容によっては再実験、データーシートの再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯科理工学Ⅱ「材料」の講義の理解を深めるために実験を行う。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『歯科理工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯科理工学実習書、歯科技工士のための歯科理工学実習

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯科理工学実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　18/90 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「鋳造冠の寸法精度」
合金の融解と鋳込み方法を説明できる。
鋳造機の種類を知り、鋳造欠陥の種類、原因および対策を説明できる。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・　埋没、鋳造条件を変えたとき、模型鋳造冠の寸法がどのように変わるかを調べ、鋳造収縮補正理論を修得する。あわせて、歯科精密鋳造法の基本的実技を修得する。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第１回　実習講義
第２回　試験片作成
第３回　試験片作成
第４回　埋　没
第５回　埋　没
第６回　鋳　造
第７回　鋳　造
第８回　計　測
第９回　データー処理　まとめ</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr><tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>４</td></tr><tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>３</td></tr><tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>２</td></tr><tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>１</td></tr><tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>０</td></tr></table>提出されたデーターシート、考察および、実験内容に沿った試験だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">合格点に満たない場合は再試験を行う。内容によっては再実験、データーシートの再提出。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科理工学Ⅲ「鋳造」の講義の理解を深めるために実験を行う。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯科理工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯科理工学実習書、歯科技工士のための歯科理工学実習

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯科理工学実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　12/90 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「自在鑞付け」
合金の接合方法を学習し、自在鑞付けの手技を修得する。
矯正装置に使用される線屈曲についての手技を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・自在鑞付けができる。
・線屈曲ができる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　鑞付け　①
第 3 回　鑞付け　②
第 4 回　鑞付け　③
第 5 回　研　磨
第 6 回　屈曲、提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出されたデーターシート、考察および、実験内容に沿った試験だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">合格点に満たない場合は再試験を行う。内容によっては再実験、データーシートの再提出。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科理工学Ⅱ「材料」の講義の理解を深めるために実習を行う。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯科理工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯科理工学実習書、歯科技工士のための歯科理工学実習

授業科目	全部床義歯技工学 （講義） 必修　24/24時間(前期)	担当教員	阿部　健 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	無歯顎者の顎口腔系の形態、機能を学び、学理的に適った全部床義歯（総義歯）作製について理解する。		
達成目標	全部床義歯の特性および関連のある生体の基礎知識を理解する。 全部床義歯の作製順序を理解する。 有床義歯の関連項目について理解する。		
授業計画	**第1回　シラバスの概説　有床義歯技工学概説** 授業内容：　全部床義歯の特性、作製順序 **第2回　全部床義歯の印象採得に伴う技工作業①** 授業内容：概形印象採得、研究用模型・個人トレー作製、形態的基礎知識 **第3回　全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業②** 授業内容：　精密印象採得、作業用模型・咬合床作製 **第4回　有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識①** 授業内容：咬合採得、咬合器装着①、機能的基礎知識 **第5回　有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識②** 授業内容：フェイスボウトランスファー、咬合器装着② **第6回　有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識③** 授業内容：ゴシックアーチ描記、チェックバイト採得、咬合器装着③ **第7回　全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成** 授業内容：人工歯選択、前歯部・臼歯部人工歯排列、審美的基礎知識 **第8回　全部床義歯の埋没と重合** 授業内容：　蝋義歯試適、歯型採得、埋没、重合、研磨 **第9回　全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨** 授業内容：咬合器再装着、人工歯削合・研磨 **第10回　有床義歯とその関連事項①** 授業内容：修理方法、リベース・リライン方法 **第11回　有床義歯とその関連事項②** 授業内容：オーバーデンチャー、金属床義歯、その他の有床義歯 **第12回　まとめ** 授業内容：総復習および補足		

履修上の注意	出席は毎時取るので無断で欠席しないこと。 必要に応じて参考資料を渡すが、きちんと保管し、教科書と一緒に毎回持参すること。
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験では達成目標のリストに挙げたことがらの意味を理解し、問題に応じて解くことができることをみる。定期試験の結果で成績評価を行う。
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果の状況をもとに、再試験やレポートを課す。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・有床義歯技工学実習を行い、作製方法についてさらに深く学ぶ。
教　科　書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>全部床義歯技工学実習Ⅰ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　22/210 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「個人トレーの製作」
全部床義歯の印象採得に伴う技工操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・個人トレーを製作できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　研究用模型製作　（上顎のみ）
第 3 回　個人トレー外形線の記入・研究用模型の修正
第 4 回　トレー用常温重合レジンの圧接
第 5 回　トレー用常温重合レジンの圧接
第 6 回　厚み調整
第 7 回　厚み調整
第 8 回　厚み調整
第 9 回　研磨・維持形成の付与
第 10 回　研磨・維持形成の付与
第 11 回　仕上げ・完成提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>４</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>３</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>２</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>１</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>０</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度やレポートの提出状況も考慮して評価する。
</td></tr>
</table>

水準に達しない学生に対する対応	製作物を再度修正して提出する。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・有床義歯技工学「全部床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	有床義歯技工学実習書　全部床義歯編

授業科目	全部床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　56/210時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「咬合堤製作～咬合器装着」 全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業において、作業用模型の処理について理解し、咬合堤について理解するとともにとその製作方法を習得する。また、使用する咬合器について理解するとともにその使い方を習得する。その他使用する材料や器具の使い方を習得する。		
達成目標	・作業用模型に基準線(設計線)の記入ができる。 ・リリーフ・ポストダムについて理解し、作業用模型を調整できる。 ・基礎床の製作法を習得する。 ・咬合床の製作法を習得する。 ・平均値咬合器を使用して、咬合床の装着法を習得する。		
授業計画	第１回　実習講義 第２回　スプリットキャストの製作 第３回　外形線・基準線の記入 第４回　外形線・基準線の記入 第５回　模型調整(ポストダム・リリーフ・ブロックアウト) 第６回　基礎床製作(トレー用常温重合レジン圧接) 第７回　基礎床厚み調整 第８回　基礎床厚み調整 第９回　基礎床研磨・辺縁形成 第10回　咬合堤製作 第11回　咬合堤製作①　上下高さ調整 第12回　咬合堤製作② 第13回　咬合堤製作③　歯槽頂線・幅 第14回　咬合堤製作④ 第15回　咬合堤製作⑤　気泡処理 第16回　咬合堤製作⑥　前歯部角度調整 第17回　咬合堤製作⑦ 第18回　咬合堤製作⑧　前アーチ調整 第19回　咬合堤製作⑨ 第20回　咬合堤製作⑩　歯槽頂間線 第21回　咬合堤製作⑪　幅調整 第22回　咬合堤製作⑫ 第23回　咬合堤製作⑬　表面処理 第24回　標準線記入⑭ 第25回　咬合器準備・上顎一次石膏・上顎二次石膏 第26回　下顎一次石膏 第27回　下顎二次石膏注入 第28回　仕上げ・咬合床咬合器装着　提出		

<table>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度やレポートの提出状況も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「全部床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　全部床義歯編</td></tr>
</table>

授 業 科 目	全部床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　56/210 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「人工歯排列・歯肉形成」 人工歯の種類、形態および前歯部・臼歯部排列の法則を理解し、排列方法を修得する。無歯顎での咬合関係(調整)を理解する。排列後の歯肉形成の目的を理解し、技術を修得する。その他使用する材料や器具の使い方を修得する。		
達 成 目 標	・オーバージェットとオーバーバイトについて理解する。 ・前歯部人工歯排列の原則を理解し、排列方法を修得する。(下顎法) ・臼歯部人工歯排列の原則を理解し、排列方法を修得する。 ・歯肉形成の目的を理解し、形態及びワックス処理方法を修得する。		
授 業 計 画	第 1 回　実習講義・咬合堤被蓋カット 第 2 回　上顎前歯部排列　① 第 3 回　上顎前歯部排列　② 第 4 回　下顎前歯部排列　③ 第 5 回　下顎前歯部排列　④ 第 6 回　下顎臼歯部排列　⑤ 第 7 回　下顎臼歯部排列　⑥ 第 8 回　上顎臼歯部排列　⑦ 第 9 回　上顎臼歯部排列　⑧ 第 10 回　ワックス盛り上げ 第 11 回　歯肉形成　　歯頸部カット① 第 12 回　歯肉形成　　歯頸部カット② 第 13 回　歯肉形成　　歯頸部カット③ 第 14 回　歯肉形成　　歯頸部カット④ 第 15 回　歯肉形成　　床縁形成　　⑤ 第 16 回　歯肉形成　　床縁形成　　⑥ 第 17 回　歯肉形成　　床縁形成　　⑦ 第 18 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑧ 第 19 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑨ 第 20 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑩ 第 21 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑪ 第 22 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑫ 第 23 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑬ 第 24 回　歯肉形成　　歯槽部豊隆　⑭ 第 25 回　表面処理 第 26 回　表面処理 第 27 回　口蓋縫線、ヒダの形成 第 28 回　完成、提出		

<table>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table>
<tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「全部床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　全部床義歯編</td></tr>
</table>

授 業 科 目	全部床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　40/210 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「埋没・重合・咬合器再装着」 蝋義歯の歯槽部ワックスと基礎床部分を義歯床用レジンに置き換える技工作業である。フラスコ埋没法・流蝋の方法・レジン重合法・咬合器再装着について理解し、それらの方法を修得する。その他使用する材料や器具の使い方を修得する。		
達 成 目 標	・フラスコ埋没法(アメリカ法)について理解し、作業方法を修得する。 ・流蝋法について理解し、作業方法を修得する。 ・義歯床用レジン(加熱重合レジン)の重合法について理解し、作業方法を修得する。 ・フラスコからの掘り出し方法を修得する。 ・咬合器再装着(スプリットキャスト法)について理解し、その作業方法を修得する。		
授 業 計 画	第 1 回　実習講義 第 2 回　埋没前準備(テンチの歯型採得) 第 3 回　埋没前準備(作業模型基底部にアルミホイール貼り付け) 第 4 回　埋没前準備 第 5 回　一次埋没 第 6 回　一次埋没 第 7 回　一次埋没 第 8 回　二次埋没 第 9 回　二次埋没 第 10 回　三次埋没 第 11 回　流　蝋 第 12 回　流　蝋 第 13 回　レジン填入・重合 第 14 回　レジン填入・重合 第 15 回　レジン填入・重合 第 16 回　掘り出し 第 17 回　掘り出し 第 18 回　咬合器再装着 第 19 回　咬合器再装着 第 20 回　完成、提出		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>４</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>３</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>２</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>１</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>０</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「全部床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　全部床義歯編</td></tr>
</table>

授 業 科 目	全部床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　36/210 時間(前期)	担当教員	専任教員 （実務経験教員） 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「削合・研磨」 主として重合ひずみによって生じた咬合関係の不正を修正し､咬合小面を形成して削合を完成する。義歯の研磨の目的について理解し、その作業方法を修得する。その他使用する材料や器具の使い方を修得する。		
達 成 目 標	・選択削合、自動削合について理解し、作業方法を修得する。 ・義歯床の研磨について理解し、その作業手順・方法を修得する。 ・義歯の洗浄・保管について理解する。		
授 業 計 画	第 1 回　実習講義 第 2 回　選択削合 第 3 回　選択削合 第 4 回　選択削合 第 5 回　自動削合 第 6 回　人工歯の形態修正 第 7 回　粗研磨 第 8 回　粗研磨 第 9 回　中研磨 第 10 回　中研磨 第 11 回　レーズによる中研磨 第 12 回　レーズによる中研磨 第 13 回　レーズによる中研磨 第 14 回　レーズによる中研磨 第 15 回　仕上げ研磨 第 16 回　仕上げ研磨 第 17 回　仕上げ研磨 第 18 回　研磨完成・洗浄・提出		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>４</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>３</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>２</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>１</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>０</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「全部床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学　全部床義歯編</td></tr>
</table>

授業科目	部分床義歯技工学 （講義） 必修　20/20 時間(後期)	担当教員	金澤　利宏 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	授業目標　歯牙の部分欠損をポータブルに補充する理論と製作方法の履修。 教育方針　大多数の学生は歯科について予備知識がないので基礎知識の暗記を前提にし、さらにステップアップを図る。 概　要　テキストのスライドを中心にし、配布したノートをまとめる。 テキストを２～４回繰り返し暗記と理解を深める。		
達成目標	1　歯牙の部分欠損の基本を理解する。 2　中学の「テコの理論」「作用反作用の法則」などを理解し部分入れ歯の基礎理論を理解する。 3　基本的部分入れ歯の製作と、その応用の上級の部分入れ歯の製作を理解する。		
授業計画	第１回　部分床義歯の概説 部分床義歯の特性、製作順序、構成要素、印象採得、咬合採得 第２回　部分床義歯の製作① クラスプの製作、バーの製作 第３回　部分床義歯の製作② 人工歯排列、歯肉形成、埋没、重合、研磨 第４回　有床義歯とその関連事項 修理、リベース、オーバーデンチャー、金属床義歯、 その他の有床義歯等 第５回　部分床義歯の復習① 第６回　部分床義歯の復習② 第７回　部分床義歯の復習③ 第８回　部分床義歯の復習④ 第９回　部分床義歯の復習⑤ 第 10 回　まとめ 授業の進め方 1，テキストに沿ったノート(配布)のまとめ 2，テキストに沿ったスライドでの説明 3，“2”を繰り返し、暗記と理解に努める。 4，授業の前半では暗記を重視し、後半は理解を深める。 5，授業中はなるべく生徒を指名し回答させ、緊張をもたせる様に努める。 6，第１～４回授業は、アウトラインを、それ以降はステップアップを図る。		

履修上の注意	テキスト中心の授業ではあるが、主にテキストを基にしたスライドとノートでの授業なので各自テキストを精読するように心掛けてほしい。
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	冬休み後のノートの提出と、後期末試験の結果で決める。 試験は上記内容で６０点以上を合格とする。
水準に達しない学生に対する対応	再試験、再々試験で対応する。 あるいはレポートで対応することがある。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	関連授業　　歯の解剖学、全部床義歯技工学、歯科理工学 実習、実験　　有床義歯技工学実習、歯科理工学実習
教　科　書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」　（ＭＤＰ） 全国歯科技工士教育協議会　編集
参　考　書	補綴臨床　etc インターネットサイト １　Pub Med ２　google scholar

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>部分床義歯技工学実習Ⅰ（実習）
必修　20/210 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
(実務経験教員)
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「個人トレー」
部分床義歯の印象採得に伴う技工操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・部分的にではあるが機能印象が採得できる個人トレーを製作できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　トレー外形線の記入・研究用模型の修正
第 3 回　トレー用常温重合レジンの圧接
第 4 回　トレー用常温重合レジンの圧接
第 5 回　厚み調整
第 6 回　厚み調整
第 7 回　厚み調整
第 8 回　研磨・維持形成の付与
第 9 回　研磨・維持形成の付与
第 10 回　仕上げ・完成提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr><tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr><tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr><tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr><tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr><tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr></table>提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・有床義歯技工学「部分床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	有床義歯技工学実習書　部分床義歯編

授業科目	部分床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　46/210(後期)	担当教員	専任教員 （実務経験教員） 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「上顎義歯人工歯排列・歯肉形成・埋没・重合・研磨」 部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成の方法を修得する。 部分床義歯の蝋義歯埋没、重合、および研磨の方法を修得する。		
達成目標	・人工歯排列ができる。 ・歯肉形成ができる。 ・部分床義歯の埋没、流蝋および重合ができる。 ・部分床義歯を研磨できる。		
授業計画	第１回　実習講義 第２回　支台装置固定 第３回　人工歯排列 第４回　人工歯排列 第５回　人工歯排列 第６回　人工歯排列 第７回　歯肉形成 第８回　歯肉形成 第９回　歯肉形成 第10回　埋没準備 第11回　一次埋没 第12回　一次埋没 第13回　二次埋没 第14回　三次埋没 第15回　流　蝋 第16回　レジン填入、重合 第17回　レジン填入、重合 第18回　レジン填入、重合 第19回　掘り出し 第20回　研　磨 第21回　研　磨 第22回　研　磨 第23回　仕上げ・完成提出		

<table>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「部分床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　部分床義歯編</td></tr>
</table>

授業科目	部分床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　70/210時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「上顎義歯支台装置製作」 部分床義歯の構成要素と役割を理解する。 部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作を修得する。		
達成目標	・咬合床を製作できる。 ・作業用模型を咬合器に装着できる。 ・サベイヤーを使用できる。 ・線鉤(１線法・２線法)を製作できる。 ・鋳造レストを製作し、鑞着できる。 ・屈曲レストを製作できる。 ・鋳造パラタルバーを製作できる。		
授業計画	第１回　実習講義 第２回　サベイング 第３回　サベイング 第４回　外形線の記入・作業用模型の修正 第５回　外形線の記入・作業用模型の修正 第６回　咬合床の製作(トレー用常温重合レジンの圧接) 第７回　咬合床の製作(厚み調整、研磨) 第８回　咬合床の製作(厚み調整、研磨) 第９回　咬合器装着 第10回　咬合器装着 第11回　線鉤製作　① 第12回　線鉤製作　② 第13回　線鉤製作　③ 第14回　線鉤製作　④ 第15回　線鉤製作　⑤ 第16回　線鉤製作　⑥ 第17回　線鉤製作　⑦ 第18回　線鉤製作　⑧ 第19回　鋳造パラタルバーのワックスパターン形成① 第20回　鋳造パラタルバーのワックスパターン形成② 第21回　鋳造パラタルバーのワックスパターン形成③ 第22回　鋳造パラタルバーのワックスパターン形成④ 第23回　鋳造パラタルバーのワックスパターン形成⑤ （スプルー線の植立・埋没） 第24回　鋳造パラタルバーのワックスパターン形成⑥ （埋没）		

<table>
<tr><td></td><td>第 25 回　パラタルバー　鋳造
第 26 回　パラタルバー　掘出し・適合
第 27 回　鋳造レスト　ワックスパターン形成・埋没
第 28 回　鋳造レスト　鋳造・適合
第 29 回　鋳造レスト　仮着・埋没・流蝋
第 30 回　鋳造レスト　乾燥・鑞着
第 31 回　屈曲レスト　屈曲・調整
第 32 回　支台装置、バー研磨
第 33 回　支台装置、バー研磨
第 34 回　支台装置、バー研磨
第 35 回　仕上げ・完成提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「部分床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学　部分床義歯編</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>部分床義歯技工学実習Ⅰ（実習）
必修　14/210 時間(後期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「下顎義歯人工歯排列・歯肉形成」
部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・人工歯排列ができる。
・歯肉形成ができる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　支台装置固定
第 2 回　人工歯排列
第 3 回　人工歯排列
第 4 回　人工歯排列
第 5 回　人工歯排列
第 6 回　削合・歯肉形成
第 7 回　仕上げ・完成提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr><tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr><tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr><tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr><tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr><tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr></table>提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・有床義歯技工学「部分床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	有床義歯技工学実習書　部分床義歯編

授 業 科 目	部分床義歯技工学実習Ⅰ（実習） 必修　60/210 時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「下顎義歯支台装置製作」 部分床義歯の構成要素と役割を理解する。 部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作を修得する。		
達 成 目 標	・咬合床を製作できる。 ・作業用模型を咬合器に装着できる。 ・サベイヤーを使用できる。 ・鋳造鉤を製作できる。 ・屈曲バーを製作できる。		
授 業 計 画	第 1 回　実習講義 第 2 回　サベイング 第 3 回　外形線の記入・作業用模型の修正 第 4 回　外形線の記入・作業用模型の修正 第 5 回　咬合床の製作(常温重合レジンの圧接) 第 6 回　咬合床の製作(厚み調整、研磨) 第 7 回　咬合器装着 第 8 回　咬合器装着 第 9 回　鋳造クラスプ用耐火模型製作　① 第 10 回　鋳造クラスプ用耐火模型製作　② 第 11 回　鋳造クラスプ用耐火模型製作　③ 第 12 回　鋳造クラスプ用耐火模型製作　④ 第 13 回　鋳造クラスプ用耐火模型製作　⑤模型表面処理(ワックスバス) 第 14 回　鋳造クラスプ用耐火模型製作　⑥ 第 15 回　鋳造鉤ワックスパターン形成　① 第 16 回　鋳造鉤ワックスパターン形成　② 第 17 回　鋳造鉤ワックスパターン形成　③ 第 18 回　鋳造鉤ワックスパターン形成　④ 第 19 回　鋳造鉤ワックスパターン形成　⑤ 第 20 回　埋　没 第 21 回　埋　没 第 22 回　リンガルバー屈曲 第 23 回　リンガルバー屈曲 第 24 回　鋳造鉤の鋳造 第 25 回　鋳造鉤の鋳造 第 26 回　鋳造鉤研磨　(熱処理) 第 27 回　鋳造鉤研磨　(熱処理) 第 28 回　鋳造鉤適合 第 29 回　支台装置、バー研磨 第 30 回　仕上げ・完成提出		

<table>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・有床義歯技工学「部分床義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　部分床義歯編</td></tr>
</table>

授 業 科 目	歯冠修復技工学 （講義） 必修　 20/20 時間(後期)	担当教員	大津　亮 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯冠修復物が単なる作品ではなく，患者さんの生体の一部として機能する人工臓器であることを認識してください．十分に機能するに足るものとするために必要な専門知識・技術を修得し，また，それらを将来発展，応用して活かしていけるような科学的思考力，洞察力を身につけてください．		
達 成 目 標	顎口腔系の機能と審美を回復させる歯冠修復物を製作するために必要な知識と技術を身につける		
授 業 計 画	第１回　 歯冠修復技工学の概要，クラウンの概要と種類 第２回　 クラウンの具備要件① 第３回　 クラウンの具備要件② 第４回　 クラウンの具備要件③ 第５回　 クラウンの製作手順① 第６回　 クラウンの製作手順② 第７回　 クラウンの製作手順③ 第８回　 部分被覆冠，全部被覆冠，CAD/CAM システム① 第９回　 部分被覆冠，全部被覆冠，CAD/CAM システム② 第 10 回　 全体の総括，まとめ		
履修上の注意	・ 各ステップを確実に理解すること． ・ 理解できないところはその都度解決するよう努力しよう． ・ 確認のための小テストなどを随時行います．		
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	・ 定期試験にて評価		
水準に達しない学生に対する対応	・ 再試験 ・ 課題レポート ・ その他		
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・ 「歯の解剖学」 ・ 「歯科理工学」 ・ 「顎口腔機能学」 ・ 「歯科技工美術概論」		

教　科　書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	随時紹介

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅰ（実習）
必修　32/96 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
(実務経験教員)
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「全部金属冠」
全部金属冠の技工操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・作業用模型を製作できる。
・咬合器に作業用模型を装着できる。
・全部金属冠のワックスパターン形成ができる。
・全部金属冠の埋没・鋳造ができる。
・全部金属冠の研磨ができる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　作業用模型製作
第 3 回　咬合器装着
第 4 回　分割・歯型のトリミング
第 5 回　ワックスパターン形成
第 6 回　ワックスパターン形成
第 7 回　ワックスパターン形成
第 8 回　ワックスパターン形成
第 9 回　スプルー線の植立、埋没
第 10 回　埋　没
第 11 回　鋳　造
第 12 回　適合・調整(コンタクト・咬合)
第 13 回　適合・調整(コンタクト・咬合)
第 14 回　研　磨
第 15 回　研　磨
第 16 回　完成・提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
</table>

水準に達しない学生に対する対応	製作物を再度修正して提出する。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯冠修復技工学「歯冠修復技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅰ（実習）
必修　26/96 時間(後期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
(実務経験教員)
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「部分被覆冠」
部分被覆冠の種類や特徴、窩洞について理解し、メタルインレーの製作を行う。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・メタルインレーの製作方法を修得する。
(MOD インレー・OD インレー・3/4 冠)</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　ワックスパターン形成
第 3 回　ワックスパターン形成
第 4 回　ワックスパターン形成
第 5 回　ワックスパターン形成
第 6 回　スプルー線の植立、埋没
第 7 回　埋　没
第 8 回　鋳　造
第 9 回　鋳　造
第 10 回　研　磨
第 11 回　研　磨
第 12 回　研　磨
第 13 回　完成・提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯冠修復技工学「歯冠修復技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅰ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　32/96 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「前歯部メタルコア」
支台築造体の技工操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・支台築造体を製作できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義・支台歯調整
第 2 回　ポスト部ワックス圧接
第 3 回　ポスト部ワックス圧接
第 4 回　歯冠形態の回復
第 5 回　歯冠形態の回復
第 6 回　歯冠形態の回復
第 7 回　歯冠形態の回復(ガイドコア採得)
第 8 回　ワックスパターン形成
第 9 回　ワックスパターン形成
第 10 回　ワックスパターン形成
第 11 回　スプルー線の植立・埋没
第 12 回　鋳　造
第 13 回　適合・調整
第 14 回　適合・調整
第 15 回　研　磨
第 16 回　完成・提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th><th>ＧＰ</th></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
</table>

水準に達しない学生に対する対応	製作物を再度修正して提出する。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯冠修復技工学「歯冠修復技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅰ（実習）
必修　6/96 時間(後期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「全部金属冠（ワックスパターン形成のみ)」
クラウンの技工操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・決められた時間内に、全部金属冠のワックスパターンを製作できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第１回　ワックスパターン形成
第２回　ワックスパターン形成
第３回　完成・提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr>
<tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr>
<tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr>
<tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr>
<tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr>
</table>
提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">製作物を再度修正して提出する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯冠修復技工学「歯冠修復技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を繰り返し練習し、限られた時間の中で製作する技術を習得する。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

授業科目	架工義歯技工学(講義) 必修　20/20 時間(後期)	担当教員	小林　克紀 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	顔の一部としての口ではなく，発音･機能･嚥下の機能の中心的役割を果たす顎口腔系としての機能を理解し，その機能を十分に発揮できる補綴物を製作するために必要な知識と技能を習得することを目標とする。		
達成目標	1. 歯冠修復技工学の目的・顎口腔系の機能について説明できる。 2. ブリッジの概要と特徴・構成要素・種類について理解する。 3. 歯冠補綴物の製作過程・技工作業の順序・意味を理解する。 4. 製作過程における使用材料の名称や，性質，注意点などを理解する。 5. ブリッジにおける支台装置の種類と適応・用途について理解する。 6. ポンティックに必要な要件・種類・形態および適応用途について理解する。 7. 連結法の種類と適応用途・連結部に必要な要件について理解する。 8. インプラントの構造・種類について理解する。 9. インプラント上部構造製作時の注意点について理解する。		
授業計画	第１回　歯冠修復技工学の概要 ブリッジの概要と特徴・構成要素・種類 第２回　咬合器装着 第３回　ワックスアップ，埋没，鋳造作業 第４回　連結法 第５回　調整・研磨 第６回　試適・仮着・合着 第７回　ブリッジの支台装置 第８回　ポンティック（架工歯） 第９回　連結法とブリッジの製作法 第 10 回　インプラント（人工歯根）		
履修上の注意	出席は毎時間とるので無断で欠席しないこと。 毎時間，前授業の内容の小テストを行う。その小テストの点数を 50/100 とし，成績に加味する。また理解の程度を確認するために質問を行う。 疑問な点等があれば積極的に質問すること。		
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	達成目標のリストに挙げた内容について理解し，解答できることを見る。 また，小テストからも出題し，定期テスト，小テストの総合的な結果で成績評価を行う。		

水準に達しない学生に対する対応	定期テスト・小テストの結果をもとに、再試験・レポートを課すこととする。
関連する授業・実習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	歯冠修復における器材・種類においては多種多様で，特殊なものもあるためその場に応じて教科書以外のものを使用する場合がある。
教　科　書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>架工義歯技工学実習Ⅰ（実習）
必修　30/30 時間(後期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
(実務経験教員)
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">ブリッジの構成要素である、支台装置とポンティックの種類と特徴、その連結法を学ぶ。
ブリッジの技工操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・作業用模型を製作できる。
・咬合器に作業用模型を装着できる。
・ポンティックの種類と形態を説明できる。
・ブリッジのワックスパターン形成ができる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　作業用模型製作
第 2 回　作業用模型製作
第 3 回　咬合器装着
第 4 回　分割・歯型トリミング
第 5 回　分割・歯型トリミング
第 6 回　ワックスパターン形成
第 7 回　ワックスパターン形成
第 8 回　ワックスパターン形成
第 9 回　ワックスパターン形成
第 10 回　ワックスパターン形成
第 11 回　ワックスパターン形成
第 12 回　ワックスパターン形成
第 13 回　ワックスパターン形成(ポンティック基底面形成)
第 14 回　ワックスパターン形成(連結)
第 15 回　完成・提出</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td><td>ＧＰ</td></tr><tr><td>秀</td><td>９０～１００点</td><td>合　格</td><td>4</td></tr><tr><td>優</td><td>８０～　８９点</td><td>合　格</td><td>3</td></tr><tr><td>良</td><td>７０～　７９点</td><td>合　格</td><td>2</td></tr><tr><td>可</td><td>６０～　６９点</td><td>合　格</td><td>1</td></tr><tr><td>不可</td><td>６０点未満</td><td>不合格</td><td>0</td></tr></table>提出された製作物を評価するだけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
</table>

水準に達しない学生に対する対応	製作物を再度修正して提出する。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯冠修復技工学「架工義歯技工学」の講義の理解を深め、基礎的な技工操作を身に付ける為の実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書